

平和文化研究 第40集 (2019年5月)

シンポジウム 都市の記憶 III

旧長崎警察署庁舎について

長崎総合科学大学工学部工学科建築学コース 教授

山田由香里

長崎総合科学大学

長崎平和文化研究所

旧長崎警察署庁舎について

長崎総合科学大学工学部工学科建築学コース 教授

山田由香里

皆さん、こんにちは。これから旧長崎警察署庁舎について、お話をします。私の専門は歴史的な建築を調べるのが仕事です。今回縁あって、旧長崎警察署庁舎を調べる機会がありました。報告をいたします。

これは旧長崎警察署の正面の外観です。私は長崎に来て12年になります。来た当時からすごくいい建物だなと思いました。大波止から見ると正面の塔が見えて、なんてカッコいいんだと思っていました。それがこの建物の最初の印象です。

1. 従来の研究

この建物は、以前から調べられています。大きくはこの二つの成果です。一つは『長崎被爆50周年事業の被爆建造物等の記録』で、被爆後50年経った時にこの建物もその対象として取り上げられました。この時の評価は、県庁や裁判所、長崎本博多郵便局など近くの主要建造物はほとんど消失しており、焼けなかったのは奇跡的である。これが平成8年の評価です。

2年後に長崎県教育委員会で長崎県内の近代化遺産について調査が行われました。これは、本の表紙と内容です。この時も正面から見た写真が使われています。やはり塔が見えるこの角度が絵になる。長崎市内に残る近代建築（明治から戦前まで）として、活水学院本館、長崎大学の経済学部にある瓊林会館本館などの詳細調査の6件の一つとして収録されました。長崎市内の近代建築では6件しかない、その一つと評価されました。このように平成8年、平成10年に十分な評価がされたと私は思っていました。

2. 2018年8月～12月、調査実施

2018年の夏に、もっと詳細に調査をしてほしいという依頼がある方からありました。このままでいくと建物が無くなってしまいそうだと。李先生もこの建物をテーマにされていますし、他の方がやっている建物はあまり調査したくないんですね。しかし無くなってしまいそうだというのは困るので、2018年の8月から12月にかけて調査をしました。

何を調査したかという当時の新聞記事を調べました。長崎県立図書館に通って、当時の新聞記事を探しました。県立図書館も2018年11月に閉じたので大急ぎだったんですけども、何日も通って大正時代の新聞記事を見ました。もう一つは機会を作ってもらい、警察署の内部に入って建物の調査をしました。写真に写っているのは本学名誉教授の林一馬先生です。長崎県文化財保護審議会の会長をされています。私もメンバーです。二人とも立場としては県内の重要な文化財の可能性のある建物として調査をしました。

3. 新聞記事

最初の新聞記事の成果です。大正 10 年（1921）から 12 年の東洋日の出新聞と長崎新聞をめくったところ、5 か所に記事を見つけました。この長崎新聞は、今の長崎新聞社とは違う会社だそうです。最初の記事が東洋日の出新聞大正 10 年 5 月 14 日号です。見出しは「長崎署新築着手」です。この建物は大正 10 年、1921 年 5 月 14 日に新築に着手したことがわかりました。今まで建物の完成は大正 12 年 7 月らしいことはわかっていましたが、いつ建て始めたかはわかっていませんでした。いつから建て始めたかは大切な情報です。記事を見ると本年度は基礎工事とある。これから実施設計に着手するとも書かれています。この時から実際の建物の設計に入ったことも記事からわかります。

その次に見つけたのが長崎新聞大正 12 年 7 月 1 日の記事です。いよいよ完成に近づく頃です。2 年かかっています。この 7 月 1 日がほぼ建物が完成したという記事です。写真は記事の部分です。「新築落成せし長崎警察署、大波止の真正面に聳え立つ」と、紹介されています。記事の中で特に大切な所を黄色でマークしました。建築は設計者の他に、実際に建てる建設会社があります。その名前がここに紹介されていました。前日の 6 月 30 日に請負人橋本組から県にこの建物が引き継ぎされた。建物を実際に建築したのは橋本組だというのがわかります。建物の構造は、鉄筋コンクリート造の現代復興式建築で、地下を加えて 3 階建てです。次のマークした部分は、各階の部屋の名前が書いてある。これは大変貴重な情報です。あとで紹介をします。

この記事で、実際に造った建設会社の名前と、この頃にはもう建物が完成したことがわかりました。建物の完成から実際に中に人が入れるようになるまでには少し時間がかかります。それがいつか見ていくと、長崎新聞大正 12 年 7 月 21 日号に記事が出てきました。長崎警察署が新築落成した、できあがったとありました。この日の午前 10 時から午後 4 時まで市内の各官庁、会社の有力者、県市会議員、公私名誉職、新聞記者などを案内して観覧してもらった。この時にはできあがっていたと。これが新聞記事を見ての成果です。いつから建て始めて、いつ出来上がって、誰が実際に造って、どういう部屋があるのかというのがこれではっきりしました。

4. 建物調査

もう一つ調査をしました。建物の中の調査です。2018 年 10 月に 1 日許しを得て 2 時間、中を見せてもらいました。写真は正面玄関を入れてホールに入ったところの様子です。図はその日に私がとったメモです。建築では野帳と言ったりします。調査のメモをこのように書きます。私が何を書いたかという、大正 12 年に建てられた時と今の様子を比べて、変わっている所です。大正 12 年以降に手が入っている所はどこかを詳しく見て回りました。

例えばこの写真ですと、中央に板がはまって扉を付けている箇所があります。これは後の時代に板をはめて塞いだ所です。こういうのは最初の時にはなかった。右手のドアから入った内部は、今は三つに分かれています。これも実際に見ると間仕切りは後世のもので、最初はなかった。そういったことがわかってきます。

5-①. 建物復元 1 階

新聞記事の部屋の名前と建物の跡からわかる最初の姿を照らし合わせたところ、建物の部屋名を合致させることができました。それがこの図になります。これが一昨日の長崎新聞に載ったわけです。

どのように対照していったのか紹介します。先ほど紹介した長崎新聞大正12年7月1日の記事は、1階に、事務、会計、応接、人事相談、宿直の5部屋があると書いてあります。これだけではどの部屋がどれかわからない。長崎新聞の大正12年7月22日の記事には、もう少し詳しく書いてあります。表玄関左手に行政事務室ある。玄関口の右手に行くと会計室がある。銀行のような窓というのは玄関に向いてあった窓だと思われます。会計室と事務室の中間位置に応接室がある。中間がわかりにくいですが、部屋の様子からみて、ここが応接室だろうと判断しました。部屋の中央の天井に、写真のような飾りが残っている。このような飾りが残っているのはここだけです。応接でお客様を迎えますから、こういう飾りを設けてきれいな照明が付いていたと思われます。応接室の奥隣りが人事相談室です。次が電話交換室兼宿直室。このように当てはめることができました。宿直室は、写真のような小窓が残っています。この建物は階段が2か所あります。一つは玄関ホールに、もう一つは南端にある。当時、ここに勤めた人は、宿直室脇の階段を使っていたと思います。会社でも役所でも、勤める人は正面から入らずに通用口から入ります。通用口から入った所は、今でも大抵小さな窓があって鍵の受け渡しとかします。その小窓がおそらくこれなので、ここが宿直室だろうと判断されました。この建物は便所がないですが、別の写真と対照させて通用口から入ってこちら側の建物が便所であったらうと。このように1階が復元できました。

②建物復元2階

2階は、7月1日の記事では、会議、医務、高等、刑事、刑事寢室、治罪、参考の七室あります。7月22日の記事と合わせると、2階は高等室と医務室が隣り合わせで、医務室の隣が会議室とあります。会議室は、毎朝訓示をする部屋だともあります。そうするとこの2階で一番大きい県庁通りに面した部屋が会議室です。署長さんが訓辞を垂れる様子が、毎朝県庁坂を通る人から見えたと思います。医務室は会議室の隣で、その隣が高等室です。高等室は署長室のことですね。場所としても正面塔の2階で、いい場所です。高等室の奥に鰻の寝床のような長い部屋があって、参考室と呼んでいる。これがちょっとわからなかった。右側の写真は、南側の廊下から参考室のあたりを撮ったものです。今、参考室はなくて廊下が伸びている。写真で、林一馬先生が立っている場所の床と天井を確認したところ、部屋の間仕切りの跡が残っていました。ある時期この参考室の間仕切りを取って、廊下を付け替えたことがわかりました。復元図では参考室を復元して、鰻の寝床のような長い部屋としました。記事によると、参考室の向かいが刑事室と治罪室で、その間に刑事寢室とあります。今南側は大きな一部屋になっています。ですが天井に間仕切りの後が残っていますので、こうやって間仕切りを復元して刑事室、治罪室、刑事寢室が復元できました。

③建物復元地階

最後は地階です。地下室でわかりやすいのが留置所です。東側の奥に留置所が今も残っています。写真の状況です。留置所3部屋、手前に保護室があって、巡查部長休憩室が留置所と保護室の前にあります。次が巡查休憩室。その他の部屋も順に部屋を当てはめることができました。

6. 建物外観

今説明した部屋の間取りは、建物进行评估する上で大変重要です。旧警察署と言われながら警察署時代の様子は全くわかっていませんでした。写真は、県庁坂から見た外観です。2階は、毎日訓辞を垂れていた会議室でした。このように警察署時代の様子がわかるのは、この建物が当時どのように使われていたかを知るのに大変重要です。ですからこれは一つの大きな成果です。

新聞記事を合わせた結果、建物内部の様子はわかりました。建物としてさらに評価したいのは、外側の部分です。この建物は塔の部分が華やかで目を引きますが、県庁坂に面する部分、それから反対側の部分は地味だなと思うかもしれません。この地味だなという感じが、大正 12 年の流行りのデザインです。その前の華やかな装飾の時代から、装飾を控え目にした時代の姿です。デザインは、華やかな時代とそれを抑えた時代が繰り返されます。旧長崎警察署は、装飾が抑え目な時代のデザインです。これは世界中で同じ傾向がありました。まさに、時代を象徴するデザインです。

7. 建物細部

とはいえ、正面の塔はなかなかすばらしい。特に塔の 3 階の窓ですね。ギリシャの神殿建築に習った装飾で窓を囲んでいて華やかです。それとこの建物は、柱や梁は鉄筋コンクリート造です。鉄筋コンクリート造で大正 12 年は早いです。表面にタイルを貼っていますが、このタイルも時代としては早いです。今タイルは当たり前前の材料ですけれども、大正 12 年は珍しい材料でした。控え目なデザインは室内の階段部分にも見られます。幾何学模様を使って、抑え目ながら御洒落な感じもする。手すりは、楕円形のデザインがずっと続いていましたが、今は竹に変わっています。戦時中の金属供出で切ったのだと思います。こんな風に見てくると、建物全体として設計が優れていると評価できます。

8. 長崎県土木課営繕組織一課長鈴木格吉

では、誰がそのデザインをしたかです。長崎県土木課営繕組織、ここが間違いなく設計したとみています。この組織がどういう建物を警察署に至るまでに造ったかという、最初に有名なのは長崎県庁舎と隣にあった長崎県会議事堂です。次が長崎県立図書館、そして警察署となります。明治大正で区切ると時代が切れているようですが、西暦で言うと 1911 年、1915 年、1923 年です。干支が一周期するあいだに、これらの建物が次々と県営繕組織によって建てられました。先ほど、デザインは華やかなのと抑えたのを繰り返すと言いました。それが表れています。県庁時代は華やかなデザインが日本全国で流行っていました。4 年後の図書館になると、一部に雰囲気は残りまるが抑え目になっていく。8 年後の警察署ではさらに抑えたデザインになっていく。この干支が一周期する 12 年間の県の土木課営繕組織の課長は鈴木格吉が務めていました。詳しい人は営繕組織に山田七五郎の名前が出るとは思いますが、山田七五郎の上に鈴木格吉が課長になる。その後こういう建物を手掛けていく。鈴木格吉は警察署の完成を見ずに次の場所に異動しました。なので、長崎警察署は、長崎県庁土木課営繕組織の一番輝かしい時代の最後の作品と評価しています。

9. 同時代の旧警察署

大正 12 年と同時代の警察署が全国にどのくらい残っているかを調べました。約 10 件残っています。長崎から一番遠い所ですと、北海道函館の水上警察署があります。写真は、年代順に並べました。一番古いのが旧長崎警察署で 1923 年、新しいと言っても 1932 年、昭和 7 年が石川県小松に残る旧小松警察署です。大正終わりから昭和の警察署を並べてみると、鉄筋コンクリート造の警察署庁舎で、旧長崎警察署が一番古い建物と評価できます。写真を並べると、雰囲気が似ています。正面に塔を持つのもこの時代の流行りです。⑥京都府警察本部のころからだんだん塔は持たなくなって、装飾の少ないモダンな建物になっていきます。残り 9 件の警察署庁舎は、今も警察署として使われているのは⑤芦屋警察署と⑥京都

府警察本部だけです。芦屋警察署は正面の入口部分だけ保存されて、両側は昔のデザインと同じように建て直されています。京都府警察本部はあと2年ほどすると文化庁が入る予定です。他の建物は全部旧庁舎で、今は警察署としては使っていません。積極的に活用しています。研究所にしている建物もあれば、子ども絵本館として子どもの施設にしている所もあります。国の文化財に登録している所もあります。他の9件を見ると活用事例の参考にもなります。

10. 旧長崎警察署の価値

最後に、この長崎警察署庁舎の価値をまとめます。価値の一つ目は、大正12年の完成で大正末から昭和初期にかけて建てられた鉄筋コンクリート造の警察署のなかでは最も古い。外観も内観も大正12年の様子をよく留めています。価値の二つ目は、長崎県土木課営繕組織の希少な現存例です。この組織は全国でもトップクラスの組織でした。ここにいた人たちは、その後横浜市に行ったり、東京に行ったりして、特に関東大震災後の復興の町づくりに大きな力を貸しました。彼らはいわば長崎で腕を磨いたと言えます。価値の三つ目は、長崎の歴史的、景観的ランドマークとして欠かせない存在です。価値の四つ目、最も言いたいのは、建物の保存活用が強く望まれるということです。

この写真は、原爆後の写真です。旧長崎警察署はこの建物です。それ以外の県庁も議事堂も燃えてしまった原爆後の写真です。私はこの写真を見れば、この建物は残さずしてどうすると思います。最後にこの写真を皆さんにお見せして終わりにします。ありがとうございました。

旧長崎警察署庁舎について



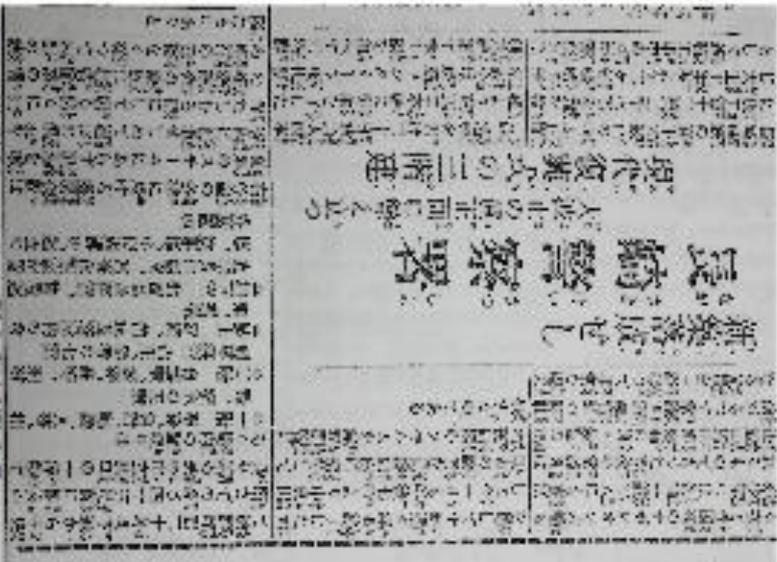
長崎総合科学大学工学部工学科建築学コース 教授 山田由香里

2. 2018年8月～12月、調査実施



①新聞記事探案（長崎県立図書館所蔵東洋日の出新聞、長崎新聞）②建物調査（長崎県文化財審議会長林一馬先生と）

3. 新聞記事



長崎新聞 大正12年7月2日号記事
(長崎県立図書館所蔵)

○東洋日の出新聞 大正10年(1921)5月14日号、「長崎署新築着手」。本年度より県庁下手空地に長崎警察署の新築に着手し、明年後に竣工(中略)、本年度の該工事は基礎工事のみなれば之より実施設計に着手し、愈々土工事に着手するは来る九月頃なるべし。

○長崎新聞 大正12年(1923)7月1日号、「新築落成せし長崎警察署、大波止の真正面に築え立つ、現代復興式の三階建」。大波止の向ふ正面に、総工費十二万二千七百余円を投じ、大正十年度より二ヶ年継続事業として新築工事中の長崎警察署は、**愈落成を告げ、三十日諸人橋本組より正式にから本県に引継を了した。新庁舎は鉄筋コンクリート現代復興式建築で、地下室を加へて三階建て、総建坪数百二十坪、地下室から中央塔までの高さ四十三尺、実に輪奐の美を極め、長崎市玄関口の一偉観である。**屋内の間取は、**一階、事務、会計、応接、人事相談、宿直の五室。二階、会議、医務、高等、刑事、刑事捜査室、治罪、参考の七室。屋上、武道道場及塔屋内の倉庫、露台。地下室、遺留品保存室、物置、巡査部長休憩室、巡査休憩室、留置場、炊事場、小使湯、清湯、巡査外套置場。**右各室の冬季に於ける暖房装置は従来のスチームにあらず、**温湯を鉄管内に循環せしめて**適当の温度を保たしむる様にして居る。

○長崎新聞 大正12年(1923)7月21日号、「新築落成せる長崎警察署」。新築落成せる長崎警察署では廿一日午前十時より同午後四時迄市内各官庁会社の有力者、県市会議員、公私名譽職、新聞記者等を案内し観覽せしむる。

4. 建物調査



旧長崎警察署 1階ホール内観



（『長崎被爆50周年事業

旧長崎警察署 調査野帳（1階）
被爆建造物等の記録』図面編を使用）

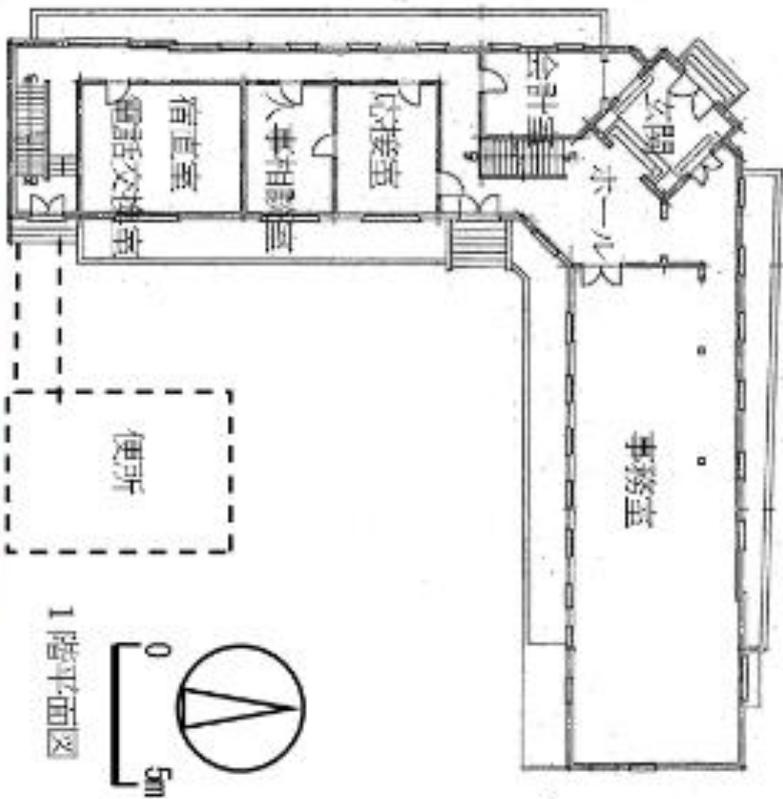
5-①. 建物復元 1階

○長崎新聞
大正12年（1923）7月1日号記事
一階、事務、会計、応接、人事相談、宿直の五室。

●長崎新聞
大正12年7月22日号記事
表玄関口左手に行政事務室。玄関口の右手に会計室、銀行のような窓あり。会計室と事務室の中間位置に
応接室。応接室の奥隣が人事相談室。次が電話交換
室兼宿直室。



応接室天井装飾 宿直室小窓



旧長崎警察署 復元1階平面図

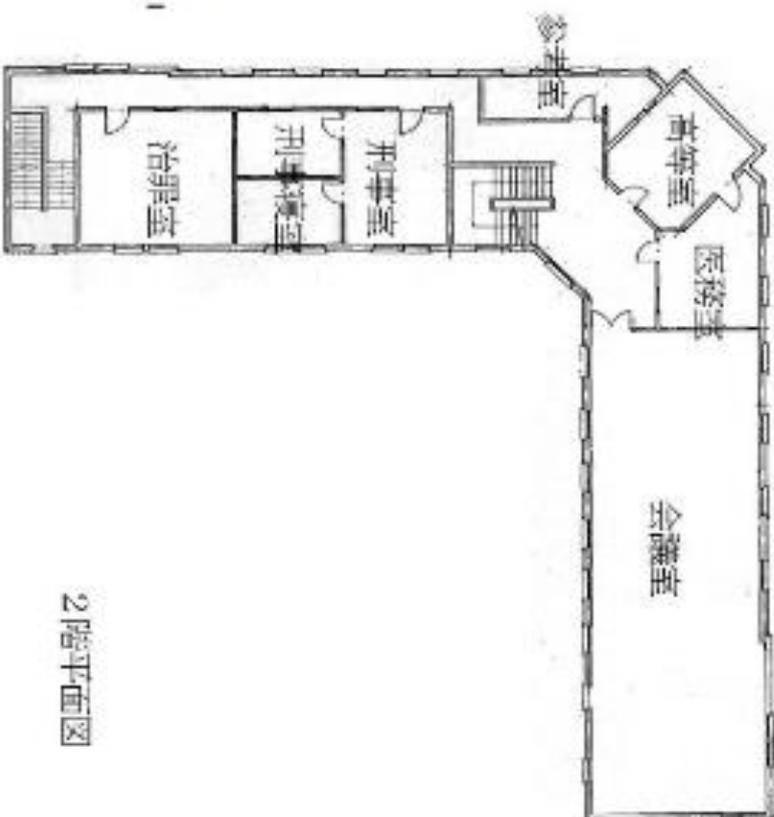
5-②. 建物復元 2階

○長崎新聞
大正12年 (1923) 7月1日号記事
二階、会議、医務、高等、刑事、刑事覆室、治罪、参考の七室。

●長崎新聞
大正12年7月22日号記事
2階は高等室・医務室が隣合せ。医務室の隣が会議室。高等室の奥に緩の覆床のような長い部屋、参考室。参考室の向いが刑事室と治罪室。



刑事室と治罪室内観 参考室壁跡



2階平面図

旧長崎警察署 復元2階平面図

5-③. 建物復元 地階

○長崎新聞

大正12年（1923）7月1日号記事

地下室、遺留品保存室、物置、巡查部長休憩室、巡查休憩室、留置場、炊事場、小使湯沸湯、巡查外套置場

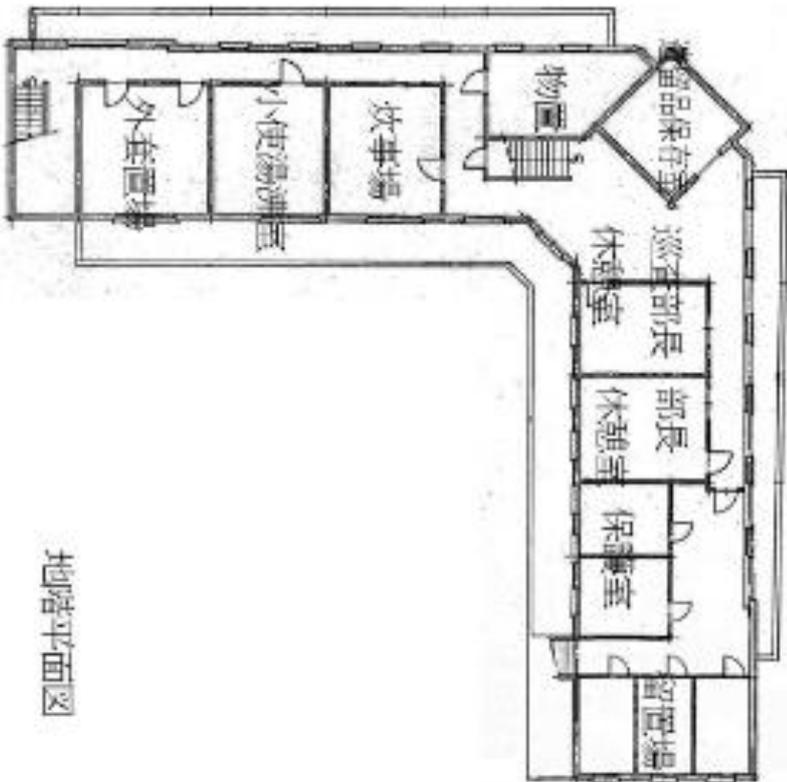
●長崎新聞

大正12年7月22日号記事

地下は部長休憩室、巡查休憩室、遺留品室、小使室、外套置場、暖房室。巡查休憩室の隣に留置所3、保護室1



留置場と保護室内観



地階平面図

旧長崎警察署 復元地階平面図

6. 建物外観



旧長崎警察署 外観 県庁坂側（北側）



外観 塔屋部分（北西側）

7. 建物細部



塔屋 窓飾り



コンクリートの壁体とタイル張り



手摺り

8. 長崎県土木課営繕組織—課長鈴木格吉



長崎県庁舎・長崎県会議事院（明治44年・1911）建設（HP絵葉書・古写真にみる長崎の町並みより）



長崎県立長崎図書館古写真（大正4年・1915）建設（HP絵葉書・古写真にみる長崎の町並みより）



長崎警察署（大正12年・1923）建設（県学芸文化課提供）

9. 同時代の旧警察署

写真は各施設HPなどより



①旧長崎警察署
大正12年（1923）



②旧大浜警察署
愛知県碧南市、1924
美しい愛知づくり景
観資源



③旧函館水上警察署
北海道函館市、1926
現函館市臨海研究所
景観形成指定建築物。



④旧尼崎警察署
兵庫県尼崎市、1926



⑤芦屋警察署
兵庫県芦屋市、1927
部分保存



⑥京都府警察本部
京都市、1927
京都府営繕課、清水組
文化庁庁舎に使用予定



⑦旧浜松警察署
静岡県浜松市、1928
アートセンターに



⑧旧金石警察署
石川県金沢市、1928
現在、地域のハブ



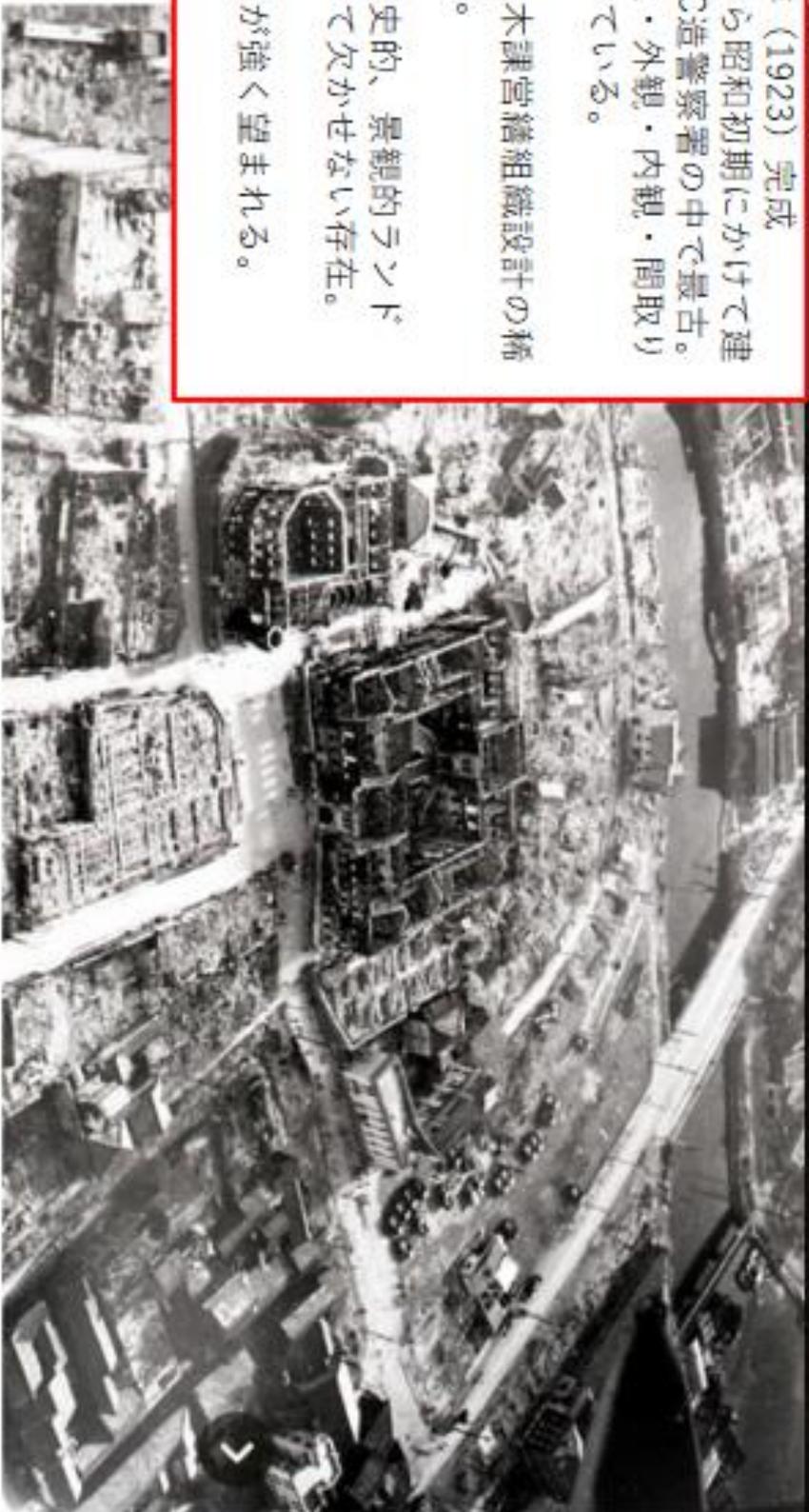
⑨旧岩槻警察署
さいたま市、1930
現在郷土資料館
国登録文化財



⑩旧小松警察署
石川県小松市、1932
現在空とこども絵本館
国登録文化財

10. 旧長崎警察署の価値

- ①大正12年（1923）完成
大正末期から昭和初期にかけて建てられたRC造警察署の中で最古。当時の構造・外観・内観・間取りをよく留めている。
- ②長崎県土木課営繕組織設計の稀少な現存例。
- ③長崎の歴史的、景観的ランドマークとして欠かせない存在。
- ④保存活用が強く望まれる。



旧長崎警察署庁舎（車側から見る、原爆後、長崎原爆資料館所蔵）

上菌：山田先生ありがとうございます。どうしても残そうというお話でした。私が旧長崎警察署の建物をすごいと思ったのは、入り口の所に御影石を切り込んでガチっとはめ込んであるんですね。石屋さんに見てもらったらそれは黒髪石という有名な石で、国会議事堂に使われている石と同じものだそうです。外壁のタイルなど全体のつくりも質の良いものだど、思いました。私が言うよりも李先生、次よろしくお願いします。